

令和4年度使用中学校教科用図書
採択地区調査研究報告書
《社会科歴史的分野》

令和3年7月30日

令和4年度使用教科用図書調査研究の観点について

1 教科用図書調査研究の観点

(1) 基礎・基本の定着

教科の基礎的・基本的な内容の確実な定着を図る上で、内容の精選及び創意工夫がなされているか。

(2) 主体的に学習に取り組む工夫

問題解決的な学習、体験的な学習を取り入れ、児童生徒の興味関心を生かし、自ら学び、自ら考える力の育成を図る工夫がなされているか。

(3) 内容の構成・配列・分量

学習指導を効果的にすすめる上で、適切な内容の構成・配列・分量となっているか。

(4) 内容の表現・表記

さし絵・地図・図表などの資料等が有効に使われるよう配慮されているか。

(5) 言語活動の充実

基礎的・基本的な知識・技能の活用を図る学習活動の充実や、言語に対する関心や理解を深め、言語に関する能力の育成を図る上で必要な言語環境を整えることに配慮されているか。

《参 考》

中学校教科用図書の種目

(社会科歴史的分野)

種 目 名 (社会【歴史的分野】)

【観点ごとの具体的な視点】

(1) 基礎・基本の定着

視点① 生徒の基礎・基本の定着を図るうえで、教科書の記述や单元ごとの内容が適切であるか。

(2) 主体的に学習に取り組む工夫

視点① 生徒が課題を発見し、その解決に向けて生徒が調べ方や学び方、見方や考え方を働かせて考えることを促す工夫がなされているか。

(3) 内容の構成・配列・分量

視点① 生徒にとって理解しやすい内容の構成・配列・分量となっているか

(4) 内容の表現・表記

視点① 内容の表現・表記は、資料等を有効に活用し、生徒にとってわかりやすいものになっているか。

(5) 言語活動の充実

視点① 生徒が調べたり考えたりしたことを適切に表現する力を育てる工夫がなされているか。

様式 1 - 2

【調査研究結果】

(1) 基礎・基本の定着

発行者名	意見 (○ 長所 ● 課題)
東 書	<ul style="list-style-type: none"> ○「歴史へのとびら」で小学校での歴史学習の振り返りをしている。(P 7) ○「歴史をとらえる見方・考え方」を設け、時期や年代の表し方、歴史の流れのとらえ方やまとめ方の仕方の説明がある。(P 8～P 17) ○小单元ごとに色づけされた年表が、ページ下に配置してあり、時代感覚を捉えやすい。 ○巻末には、各ページの用語解説を補足するための「解説・さくいん」と「人名さくいん」と「事項さくいん」がある。 ○新出の重要事項や重要語句を太字で示し、ふりがなが付けられている ○章末に「基礎・基本のまとめ」で学習の振り返りをしている。
自 由 社	<ul style="list-style-type: none"> ○巻末には、各ページの用語解説を補足するための「人名さくいん」と「事項さくいん」、「重要用語解説」がある。 ○小单元ごとに色付けされた年表（歴史モノサシ）が、ページ下に配置してあり、時代感覚を捉えやすい。 ○各单元末の「復習問題のページ」で、学習の習熟を確かめている。 ○「人物を通して歴史をとらえる」では、小学校で学んだ主な人物が振り返られるようにしている。(P16) ○資料に「国宝」「重要文化財」「世界遺産」のマークがついている。 ●「この教科書で使うマークとロゴの紹介」では、記号の説明はあるが章の構成等の説明がない。

様式 1 - 2

【調査研究結果】

(2) 主体的に学習に取り組む工夫

発行者名	意見 (○ 長所 ● 課題)
東書	<ul style="list-style-type: none"> ○各章・各節の学習を貫く「探求課題」を詳細かつ明確に示し、さらに1単位時間の学習の「学習課題」が設定され、章の終わりには「探求のステップ」において、まとめる手順も示されている。 ○「歴史的な見方・考え方」を設け、より深い思考・判断ができるようにしている。(例：P9) ○「スキル・アップ」を設け、情報を集めたり読みとったりする技能を高める工夫がある。(例：P53) ○「みんなでチャレンジ」を設け、対話的な学習をすすめる工夫がある。(例：P67) ○各単元末に、「まとめの活動」を設け、学習の振り返りと探求的な学習課題を明示している。(例：P96)
自由社	<ul style="list-style-type: none"> ○1単位時間ごとに「チャレンジ」(単元を学習したあと挑戦したいワンポイントの課題)を設け、より深い学習ができるようにしている。 ○「もっと知りたいコラム」や「人物クローズアップコラム」を適宜設け、興味・関心を広げるようにしている。 ○各単元末に「調べ学習のページ」や「時代の特徴を考えるページ」等を設け、情報を集めたり、読み取ったりする技能を高める工夫がある ●「地域の歴史を調べる」では、調べたことは記載してあるが、生徒自らが考える資料や手立ては示されていない。 ●1単位時間の学習の「学習課題」はあるが、各章の学習を貫く「探求課題」がない。 ●二次元コードが設けられておらず、関連するサイトにアクセスできない。

様式 1 - 2

【調査研究結果】

(3) 内容の構成・配列・分量

発行者名	意見 (○ 長所 ● 課題)
東 書	<ul style="list-style-type: none"> ○ 1 時間で扱う内容がすべての時間で 2 ページにまとめられており、理解しやすい構成となっている。 ○ 第 4 章 近世の日本 第 1 節の 1 で中世ヨーロッパとイスラム世界、2 でルネサンスと宗教改革を 6 ページにわたり記載している (P 100 ~ 105) ○ 明治時代の「領土確定」についてはロシア、琉球、北海道とのかかわりを取り上げるとともに、歴史的な流れを地図や年表で示し、さらに現代においても竹島、北方領土、尖閣諸島について見開きの関連ページを設けている。 ○ 「地域の歴史を調べよう」の中で、地域の復興と平和への思いで被爆地広島についての調査を紹介している。(P 276 ~ 277)
自 由 社	<ul style="list-style-type: none"> ○ 1 時間で扱う内容がすべての時間で 2 ページにまとめられており、理解しやすい構成となっている。 ○ 単元末の「調べ学習のページ」に被爆地広島、長崎の被害についての記述がくわしく記載されている。(P 250) ○ 巻末に「世界各国・王朝の興亡一覧」という資料あり、世界史的な内容の整理に役立てることができる。 ● 本文が 25 行と文章が多いページがあり (P 279)、資料の数値の表記が小さくわかりづらい (P 275)。

様式 1 - 2

【調査研究結果】

(4) 内容の表現・表記

発行者名	意見 (○ 長所 ● 課題)
東書	<ul style="list-style-type: none"> ○ユニバーサルデザインフォントを使用し、ふり仮名の文字濃度を薄くしている。 ○復元図や想像図など歴史を実感できる資料を用いるなどして、学習効果を高める工夫がみられる。(例：P 31、32、34、38) ○時代を表す特徴的な資料を、紙面を大きく使っている。(例：P 174～175) ○章ごとに「地域の歴史を調べよう」を設け、資料を活用し地域の歴史を調べる手法などの説明がある。(P 92～93) ○QRコードが記載されており、ICTを活用した学習コンテンツがある。(P 5) ○地震や津波土砂崩れなどの災害の写真を扱っていることについて、配慮を求める記載がある。(P 3) ●「重要語句」について、ふり仮名がふられていないものがある。
自由社	<ul style="list-style-type: none"> ○本文中の重要語句のフォントを太ゴシック体にしてあり、目立ちやすい。 ○見開き2ページの「もっと知りたいコラム」を設け、写真や資料とともに詳しく記述している。(P40～41、P94～95など) ○章末の「まとめ図」と、次章の初めの予告編がつながっており、流れがつかみやすい。(P148～149) ○他者では国のはじまりと神話について、あまり詳しく扱われていない神話的な内容について、詳細に書かれている。(P38～41) ●全体的に難しい言葉を用いた表現が多く、生徒にとって内容の理解が困難な部分がある。(冊封体制、廢仏毀釈)

様式 1 - 2

【調査研究結果】

(5) 言語活動の充実

発行者名	意見 (○ 長所 ● 課題)
東書	<p>○章末ごとに「まとめの活動」を設け、時代の特色をまとめることができる。また、クラゲチャートなど思考ツールを用いた表現方法の工夫が見られる。(例：P 60～P 61)</p> <p>○小単元ごとに、「チェック」、「トライ」を設け、書く活動を取り入れている。</p>
自由社	<p>○小単元ごとに「チャレンジ」を設け、書く活動を取り入れている。</p> <p>○章末ごとに「時代の特徴を考えるページ」を設け、書いたり話し合ったりする活動を取り入れている。(「ひとこと作文」「人物・時代比較の問題」「意見交換会」)</p> <p>●章末にある「調べ学習のページ」は、テーマ設定はよいが、調べた内容が全て書かれており、読み物資料になっている。</p> <p>●章末の「対話とまとめ図のページ」は、二人の対話が書かれてあるだけで、生徒の対話を促すものにはなっていない。</p>